



協働大使通信

な-ふあぬわ



2021年 9月

①が②つながって、なはのまちがもっと③④んだふるに。

協働大使通信『な-ふあぬわ』82号 2021年（令和3年）9月30日発行
発行者：那覇市協働によるまちづくり推進協議会

2021(令和3)年度 新体制でスタート！

2021年度（令和3年度）定期総会は、
昨年（令和2年度）に続き書面表決にて開かれました。



与儀弘子新会長就任！

就任のごあいさつ 与儀弘子

ハイターイ！ 与儀弘子ヤイビーン。

このたび銘苅春雄前会長より会長のバトンを引き継ぎました。ユタサルグトウウニゲーサビラ。

銘苅前会長は那覇市協働によるまちづくり推進協議会の立ち上げに関わりこの10年で協働大使を839名まで広げるなど、会の発展に多大なるご尽力を賜りました。心から敬意を表します。

さて、新型コロナウイルス感染の勢いはおさまらず、市民県民にとって厳しい日々が続いています。

人と人との接点が何よりうれしく、おせっかいを身上とする協働大使の皆様にとって日々の行動が制限され何よりもつらい毎日をお過ごしのことと思います。

でも、このような中でも子ども食堂支援の輪の広がりがやそれに加えて高校生によるフードバンク活動、校区まちづくり協議会や公民館などの連携によるワクチン接種予約サポート等、時に宜に応じた協働が見られるようになりました。まことにうれしい限りです。

これからも私たちは「なはで暮らし、働き、育てよう！笑顔広がる元気なまちNAHA」をめざして人と人が支えあうおせっかいなまちづくりのため引き続きまいた種を育て、さらに新たな種をまく活動を企画・支援していくのが当協議会の役割であると考えます。

ともに力を合わせて頑張りましょう。

「人財は宝」

顧問 銘苅 春雄

多くの協働大使が携わる校区まちづくり協議会を代表として、行政とタイアップできたことは組織の大きな力になりました。私個人としましては、那覇市社会福祉協議会時代を含めて、出会ったみなさん、私を支えて下さったみなさん、“人を知ったこと”は私の財産です。人財は宝です。与儀会長を通して協議会の発展を期します。

2021年度（令和3年度）新役員のみなさま

会長	与儀 弘子	副会長	田港 敬子
副会長	饒波 正博	副会長	佐久川 伊弘
副会長	崎山 喜聖	監査役	松田 吉貞
副会長	島田 聡子	顧問	銘苅 春雄

順不同

小学校区の

校区
まちづくり
協議会
番外編



高齢者の新型コロナウイルス ワクチン予約サポート



地域の
課題

ワクチン接種の予約で 困っている方の存在

近所で困っている方をなくしたいと思った1人から始まった取り組みは、那覇市全体へと広がっていき、様々な活動団体・機関との繋がりが生まれました。



石嶺公民館でのサポートの様子

現在、昨年より猛威を振っている新型コロナウイルス感染症への対抗策として、各地でワクチン接種が行われているところです。

那覇市では5月末より高齢者を優先してワクチン接種が始まり、8月16日現在で、116,001人(36.02%)の方が1回目の接種を終えています。そのうち、65歳以上の方で1回目の接種を終えている方は61,093人(82.46%)となっており、未だ、約20%の方がワクチン接種を行っていません。

残り約20%の方がワクチン接種を行っていない背景には、ワクチン接種予約がスタートした当初、電話がなかなか繋がらず諦めた方、予約方法がそもそも分からなかった方、1人住まいで情報がなかなか入らない方等、様々な事情があります。

解決への
アクション

首里から他校区へ広がる 「近所で近助」の輪

そうした状況の中、1人でも多くの方がワクチン接種を行えるようにと動いたのが、2019年度に開催された「なは市民協働大学院」の首里チーム「近所で近助」でした。近所でワクチン接種予約を取れなくて困っている方をサポートしようという動きは、話を聞いた首里、本庁、小禄、真和志地域の校区まちづくり協議会へ広がり、それぞれの出来る範囲でサポートが行われています。

今後の課題

まだワクチン接種予約が行えていない高齢者へどのようにアプローチしていくのが課題として挙がっており、地域団体や関係機関と連携して進めていく予定となっております。



真和志まち協サポーター



民生委員児童委員



もし、皆さまの地域にワクチン接種予約が取れなくて困っている方がいれば、校区まちづくり協議会へのご協力をよろしくお願い致します。

大使の ②

WA

平良 斗星 さん



平良 斗星
(たいら とうせい)
FM 那覇 会長
公益財団法人みらいファンド
沖縄 副代表理事

協働大使としては、初年度にラジオ局エフエム那覇の代表として委嘱を受けました。番号も002番の古参です(笑)。泉崎の旧庁舎での発起人会議やパレット市民劇場でのセシモニーの司会をつとめたことは良い思い出です。

現在はラジオ局の会長職は継続しながら、公益財団法人みらいファンド沖縄という市民立のコミュニティ財団経営にシフトし、民間の寄付募集活動の支援という市民の皆様からの寄付金を原資とした助成活動を行っています。



当財団で開催支援をしている沖縄式地域円卓会議は多数の方の支持をいただき今年 100 回目を迎えることができました。那覇市とも昨年は「コロナ禍で生まれたまちづくりを考える地域円卓会議」を開催し、市民活動と行政のあるべき関係性について議論をしました。これからも協働の橋渡し役としての役割を全うするようがんばります。



Aさん
ね〜落ち葉さん、いっぱい散らかしてグブリーしているさ〜
Bちゃん
アランド〜、私は肥料になってマーサ野菜作りに変身するよ
なくすく分・すく分でHAPPY

ヨシ子さんの カメラ日記



宮城ヨシ子さん

1939年伊是名村に生まれる。
68歳より念願だった写真を始める。2012年より
勇崎哲史(光画文化研究所)に師事し、新たな
写真の魅力に目覚める。写真集FrameOut出版

vol.2 一般社団法人ある

あるがままを
大事にしたい



いのちをキーワードに事業を展開する「ある」では、若年妊産婦を対象にした「10代ママくらぶ」を月に2回開催。若いママ同士の交流を中心に、助産師による体のケア、離乳食などの料理教室、赤ちゃんを連れてリラックスできる場を提供しています。「同世代だから共感できることが

ありますよね。一人じゃないと分かったと安心するんだと思います」と理事の安里千恵子さん。ただコロナ禍で今までのようには集まれなくなり「少人数で短時間開催するなど工夫しています。緊急事態宣言中は個別訪問してミルクやおムツを届けました」。沖縄県は全国と比較して若年出産やひとり親家庭が多い地域です。若い女性と乳幼児が孤立してしまわないよう、社会全体での支援が求められています。

わったーしんか

協働を推進している団体さんを
紹介します!



一般社団法人ある

2020年12月設立。前身団体は「私らしいお産を考える会」。若年妊産婦支援、性と生を伝える出張講座「いのちの教室」、誕生死(流産、死産)体験者の集い、障害のある人を対象としたグループホーム運営事業を行っている。



つづきはブログで!

協働 キョーゴ ユース プロジェクト



7/18
4歳〜87歳の人々と取り組む、那覇市制100周年記念事業の市民ミュージカルが7月にスタート。初日のワークショップでは、参加者の緊張を和らげる楽しいものになりました。お題に対して体で表現するパントマイムや音楽から連想する絵の共同制作など、早くもチームワークが育っています。目指す那覇市をイメージしてみんなでストーリーを作ります。本公演は2/13@なはーと。

市民ごちゃまぜ ミュージカル



6/10
那覇市地域包括支援センターにも数多くの協働大使が活躍していますが、各那覇市地域包括支援センターが連携、協働しながら、市内の各ワクチン接種会場で「健康増進」「介護予防」等の啓蒙活動のパネル展を展開しています、素晴らしい協働事例ですね。

協働で広報活動

那覇市協働によるまちづくり推進協議会

10周年のあゆみ

② いわき市と那覇市の交流



2013年(平成25年)
11月23日

ていーだシーサー贈呈式

いわき芸術文化交流館アリオスにておこなわれた贈呈式には、会長はじめ協働大使メンバーで参加し、沖縄からの想いや願いをシーサーとともに届けました。

ていーだシーサーも協働大使の一員です!

当協議会は、東日本大震災の被災地である福島県いわき市との交流事業を行ってまいりました。きっかけは、壺屋の陶工である新垣光雄氏が被災地への思いを込めて制作したシーサーを被災地に届けたいということから始まりました。

これを受けて当協議会では、被災地の「心の復興」を願い「市民交流」を目的に「シーサープロジェクト」を立ち上げ、募金活動等を行い、2013年11月には、いわき市に復興のシンボル「ていーだシーサー」を贈呈しました。2015年7月には、「ていーだシーサー」受け入れのためご尽力くださった、いわき市民の皆様が「いわきなはアート交流展」で来県されました。その折には、実行委員の1人である葉田野眞佳さんに、城間市長より協働大使の委嘱も行われました。さらに同年7月には「いわき市と那覇市の子ども交流事業」を企画し、いわき市の子ども18名と保護者18名を受け入れ、那覇市の子どもたちとの文化交流会や地域での民泊等を実施しました。

こうした活動を通して、いわき市の皆様との絆は深まり、今なお心の交流が続いています。

協働の声

学びのワクワク感を大切に地域づくりに

チームまちなか 平中 晴朗

私が所属する「チームまちなか」は、那覇市緑ヶ丘公園の活用を考える市民団体である。コロナ禍になり公園に大勢で集まる活動が難しくなった。そこで、少人数で遊べる「遊びのカタログ」を作ろう!と考えた。第一弾として、「公園の糸電話」を企画し、動画を撮影してホームページ上で配信した。この企画を通じて、公園におけるコロナ対策や撮影・動画づくりの技術をメンバー同士で楽しく学ぶことができた。このような学びのワクワク感を当団体では大切に行っている。現在の活動としてはオンラインやSNSを通じて地域の情報交換をメンバー間でやっている。ゆるく続けていくことの延長線上で地域課題の解決に貢献したいと考えている。

声をかけてもらおうと嬉しい!!

一般社団法人まちづくりうらそえ代表 大城 喜江子

繫多川公民館を拠点としての仕事から、浦添で仕事をすることになってやがて10年近くになる。時の速さを感じる日々、前期高齢者の仲間になった。頼もしい若者達に支えてもらって、いや助けてもらっているのかも知れない中で、仕事をさせてもらっていることに感謝している。

さてさて私が協働大使になったのは何時だろう、随分古い番号になり記憶喪失になる。浦添在住でありながら、いまだに「なは市民協議会」のメンバーにも居残り、動き始めた「うらそえ市民協議会」の繋ぎ役になれると良いなと思いい、先を行く那覇に学んでいる。これからもよろしくお願ひします。

協働のまちづくりに関しての意見・ご提案・取り組みの報告など、あなたの声をぜひお寄せください。(タイトル・本文(三百字以内)目次・所属・肩書・お名前・ご連絡先を書いて、下記メールアドレスへ FAX)

『ブック寄付』ご協力のお願い

～あなたの読み終えた“本”を、誰かの“感謝”に変える～



協働大使が数多く参加している、市民ボランティア団体「なは市民協議会」では、現在、本を活用した居場所づくり『ばあくらいぶらりい』を企画しています。

ブック寄付回収ボックスは「なは市民協働プラザ3F」那覇市協働によるまちづくり推進協議会事務局前に設置しています。

【お詫びと訂正】 2021年3月に発行した「協働通信」80号 P.3 「自治会と小学校 PTCA による地域の冊子「私たちのふるさと銘苅」の記事におきまして、銘苅小学校 PTCA 会長のお名前に誤りがありました。ここに深くお詫びし訂正させていただきます。 [誤] 佐渡山博会長 [正] 佐渡山安博会長

編集後記

2011年、平和通りを拠点にスタートした那覇市協働によるまちづくり推進協議会は今年8月18日で設立10周年、10歳のお誕生日を迎えました。「人を知った経験が社会活動で大きな力になった」と振り返る銘苅顧問と15年以上タッグを組み、まちづくりに取り組んだ間柄の与儀会長にバトンが渡されました。顧問と会長にお目にかかり、「協働」のオーラを感じました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で「人と会えない」「これまで通りに活動ができない」という中で、だからこそ協働大使が手をつなぎ、「協働のわ」を広げたい心温まる話題を82号で紹介しました。紙面を通じて「協働」が広がり、「わ」が広がりますよう、たくさんのお話を届けてまいります。(中川)

那覇市協働によるまちづくり推進協議会

地域・ひと・団体・行政をつなぎ、みんなが知恵を持ち寄って活動するまちづくりを育成、支援する団体です。

〒900-0004

那覇市那覇市銘苅 2-3-1 なは市民協働プラザ 3F

TEL&FAX 098-955-2282 Mail kyoudoutaisi@gmail.com



ホームページ



Facebook



メール